

世界から尊敬される日本人

～日本人だけが知らない～

ケント・ギルバート

S B新書 2018年1月

1952年米国ユタ州で育つ、ブリガムヤング大学在学中にモルモン教宣教師として来日、国際法律事務所に就職・企業への法律コンサルタントとして再来日、弁護士と並行してテレビ出演、第8回「真の近現代史観」懸賞論文の最優秀藤誠志賞を受賞。

(はじめに)

2017年は約40年の日本滞在歴がある在日米国人の私にとって記念すべき年になりました。歴史に確実にその名を遺す二人の日本人ヒーローが私の祖国で新たに誕生したからです。一人は佐藤琢磨～世界NO1の伝統を誇るモータースポーツの祭典第101回「インディ500」の栄えある優勝者に日本人として初めて、勿論アジア人としても初めての栄冠。世界が尊敬する日本人ヒーローはスポーツ界だけ見ても野球のイチロー、サッカーの本田圭佑、テニスの錦織圭、ゴルフの松山英樹等きりがありません。ノーベル賞受賞者も毎年のように輩出、日本人と云う民族は世界中から尊敬と羨望を集めています。お隣の中国や韓国の人々も国策として「反日教育」を受けるのに心の底では日本と日本人に対して憧れを抱いています。毎年大勢の観光客の訪日からも知れます。その事実に対して嫉妬と危機感を覚えるからこそ両国指導者は益々「反日」に染まる。

日本人の戦後教育は「日本と日本人の自尊心」を打ち消す目的が含まれていた。しかし現実の日本は世界から驚くほど尊敬され、世の中の多くの調査では日本人が「世界一」と云ってよいほどマナーが良いと云われています。

2012年12月の第二次安倍晋三政権誕生以降、日本と云う大国とその国民は本来あるべき姿を取り戻しつつあると感じています。

本書は歪められた歴史認識によって「愛国心」を持たない日本人の眠りを覚まし自信と誇りを取り戻す特效薬になる事を願ってやみません。

{ 序章 世界が日本人を恐れた「黄禍論」の呪縛 }

*黄禍論という大誤解～日本人の活躍を妬む曲解思想～欧米人は基本的にアジア諸国について全く無知、物事への考え方自体、日本人と中国人・韓国人とでは正反対と云って過言でない程違います。日清・日露戦争と云う二つの戦争に於ける日本の連勝は当時の中国・ベトナム・インド

- ・フィリピン・トルコ・イラン等西欧諸国から虐げられていた東洋諸国を大いに奮起させ西欧諸国に「アジア諸国が手を組んで蜂起し数的優勢の下で西欧人を追い出し最終的には世界支配をやり遂げるのではないか」という恐怖を抱かせるのに十分だった。

2018 年は世界第一次大戦の終結から丁度百年目、日清戦争・日露戦争それに続く世界第一次大戦にも英国に請われて参戦し見事 3 連勝して「五大国」に加わった当時から日本は世界に冠たる「大国」でした。そうした日本躍進の立役者が本書で紹介するような世界から尊敬される日本人達でした彼らは時代が違っても常識や固定観念に縛られず物怖じしない「革新者」で日本人らしい謙虚さ・実直さ・高潔な精神を掲げひたむきに己の信じる道を貫きました。

{ 第一章 現代日本の礎を築いた日本人 }

- * 「メイド・イン・ジャパン」を世界一の冠にした立役者～盛田昭夫～

「ソニー」は世界で最も知られた日本のブランドの代表（創始者の井深大と共に盛田は共同創業者）盛田は 1921 年生まれ大阪帝国大学理学部卒、海軍技術将校、戦後井深大と共にソニーの前身・東京通信工業(株)を立ち上げ 1958 年に社名をソニー(株)に 1971 年社長に 1976 年会長時代に世界の音楽文化を根底から覆した程の画期的発明品「ウォークマン」を発売、名実ともに「世界のソニー」を作り上げた。1992 年英国の名誉大英帝国勲章を授与され「Sir」の称号も許可・名実ともに国際的上流社会の一員となった。

～金儲けよりも社会貢献～世界中の人々が盛田を敬愛するもう一つの理由は実業家としての国際感覚「企業は地元の発展に寄与し文化に貢献すべきだ」と主張、企業は唯儲かればいいとの見地に立たなかった。

ソニーは「トリニトロン」と云うカラーテレビを米国で大ヒット、ソニーが新製品を発表する度に日本商品のイメージが見る見るうちに変わり東芝や松下（現パナソニック）等も頑張っって高品質な日本製品があふれ始めた、盛田はその先頭に立っていた開拓者であり日本と云う国のブランドイメージを向上させた偉大な人物。

- * 「食」で世界を驚嘆させた巨人「安藤百福」

～世界に通用する新しい食文化～電子レンジが家庭に普及していなかった頃、お湯さえあれば手軽に作れるカップ麺は非常に重宝され元祖カップ麺は日清食品のカップヌードルは 2016 年世界 80 ヶ国以上で販売・累計 400 億食突破と即席ラーメンの元祖である。チャーハンとカップヌードルの開発者安藤百福は実業家と技術者の両輪でその名を轟かせた。海外にも即席ラーメンを広げようと挑んだのは 63 歳の時、

晩年になっても製品開発に情熱を燃やし続け、なんと **91歳の時に宇宙で食べる為のラーメン開発を指示 2005年宇宙食としてNASAの認定を受けた**「70度のお湯でも無重力状態で湯戻し可能、スープも飛び散らないトロミをつけ、麺を一口大の塊にするなど日本人らしい細部に工夫されている」2006年米国のタイムズ紙は「60年間のアジアの英雄」の一人に選出、彼が2007年に亡くなると社説でその死を悼んでいる。

* 「生活」「文化」の両輪で日本社会を作った男～小林一三～

世界中を見渡して鉄道王と呼ぶにふさわしい人物の一人は19世紀に活躍した米国人実業家のコーネリアス・ヴァンダービルトは海運業で成功、ニューヨーク・セントラル鉄道等傘下にヴァンダービルト大学設立・慈善事業にも取り組み。今一人が日本の阪急阪神東宝グループの創始者「東の鉄道王」**小林一三**は**鉄道事業に始まり小売・不動産・エンターテイメント事業等多岐にわたり駅周辺の町づくりにも積極的かつ総合的な事業展開「鉄道会社が1から10まで街づくりに携わる」と云う斬新な手法を考え出し実行した**。現在の宝塚歌劇団を創設、日本初のターミナルデパートの阪急百貨店を始めた、こうした総合的に手掛ける事例は日本を除けば世界的に稀で後続の東急・小田急・京王・西武・東武等日本の私鉄各社の在り方にも大きく影響を与えた。

小林は第二次近衛文磨内閣では商工大臣・戦後復興院総裁を務めた。効率化に頼らない真の芸術「宝塚音楽学校」は1期につき定員約40名約26倍の狭き門（2017年）2年間みっちり教育を受けトップスターになれるのは5つの組の男役と娘役それぞれ一人ずつのかなり厳しい競争。

宝塚好きの外国人も沢山いてその魅力は皆「華麗さ」や「豪華さ」だと、**私が知る限り演者が全て女性と云うのは世界中を見て他に類を見ない芸術です**。

{ 第二章 誇り高く学問を探求した日本人 }

* 「黄禍論」の餌食となった近代科学の父～ノーベル賞を逃した男～高峰譲吉
2017年11月アジアを歴訪したトランプ大統領は中国訪問中に「日本は武士の国だ、私は中国にもそれ以外の皆にも言っておく北朝鮮とこのような事態が続くのを放置していると日本との間で大問題を抱えることになる」と語り、私には「もし、日本が本気で怒ったらただでは済まないことを中国も北朝鮮もよく知っているはずだ」という強迫に聞こえた。

米国は日本の強さを世界で一番知っているから再び軍事強国になる事だけは永久に避けたいと考えています。

英国・オランダ・フランス等がアジアやインド・アフリカ・中東等に広大な植民地を保有していた欧州諸国は日本との戦争の後、

それらを全て失っているから「黄禍論」は正しかった。その黄禍の呪いが吹き荒れた時代に正当な評価を受けられなかった日本人は多数、その筆頭として科学者であり実業家としても活躍した高峰讓吉は 1854 年生まれ現東京大学工学部と英国で工業化学と電気化学工業を学び、渡米後ウイスキー製造、1894 年バイオテクノロジーの基本である酵素のタカジアスターゼ、1901 年世界一有名なホルモンのアドレナリンと二つの画期的な薬を米国で開発・発見者として高峰は「近代バイオテクノロジーの一父」として米国等では称えられている。ワシントン D・C のポトマック河畔にある桜並木は高峰が企画・資金を集めた。更に日露戦争の折に反発的だった米国世論を正すべく資材を投げうって各地で公演会を開き「日本人は野蛮な人種ではない」と伝え続けた。

* 天皇陛下も評価した孤高の植物学者～南方熊楠～

肩書は植物学者であり民俗学・人類学・生態学等いろいろな学問に造詣が深く、実に多彩な人・稀代の天才を昭和天皇も評価、何度か接点があり植物学の知識を陛下にご進講した。

今でいう小学生の頃「和漢三才図会」105 巻等を暗記した後中学時代迄かかり筆写した逸話、1883 年東京大学の前身大学予備門に入学同級生には夏目漱石・正岡子規・秋山真之等いた、1886 年に中退し渡米現ミシガン大学に入学翌年退学渡英・大英博物館で様々な本を読み漁りその傍ら科学誌「ネイチャー」に論文を寄稿・論文数は日本人の中で最多 1900 年に帰国迄の 14 年間で英・仏・伊・独・ラテン・スペイン語等自由に操りその数 20 ヶ国語と云われている。

* 2015 年ノーベル賞「生理学・医学賞」を受賞した大村智さん

南方熊楠と同じように他人からの評価に関心がなく信じた道を脇目もふらず 45 年も微生物が生み出す有用な天然有機化合物の研究を続けた。大村さんの唯一の楽しみは「微生物を見る事」だと語っている。

{ 第三章 世界の常識を作った日本人 }

* 乾電池を発明した知られざる英雄～屋井先蔵～

～日露戦争に勝利をもたらした日用品～乾電池は日常生活に必要不可欠しかし実はこの乾電池を世界で初めて開発したのは日本人屋井、1863 年に長岡藩士の子として生まれ東京の時計店に丁稚奉公、独学に励み 1885 年電池で動く「連続電気時計」を発明、(1891 年日本で電気関係初の特許を取得但し液体式電池) 1887 年遂に「乾電池」が誕生 1894 年の日清戦争と 1904 年の日露戦争で日本は勝利、小型で持ち運びがしやすく極寒の地でも

電池の中の液体が凍結しない乾電池は無線が欠かせない戦地では大いに重宝された（中国やロシアは液体式）戦争は「情報戦」の側面があり無線を用いた情報戦で日本は中国やロシア等の強国に決定的な差をつけることが出来た。このことが報道され軍事特需を切り口として国内で大きなシェアを獲得「乾電池王」と呼ばれた。

但し乾電池の特許を取得したのは高橋市三郎と云う人物、海外では1887年にカール・ガスナーが独でヘレセンがデンマークで各々取得した。私が強く感じるのは「日本人は自分が生み出したものに対して自らの手で排他的な利権を持ちたいという感覚が薄い」と云うことです。

* 家事の概念を覆した改革者～三並義忠～

台所仕事を一新した「電気炊飯器」1950年代の日本は薪を使う「かまど」が現役だった。電気炊飯器の登場は正に「台所革命」で主婦は時間がものすごく節約できた。

これを開発した人物が昭和中期に活躍した三並義忠と云う技術者1908年愛媛県生まれ苦学して現芝浦工業大学で学び会社員を経て会社設立1952年当時に三菱電機、松下電器等は電気炊飯器の開発に失敗、三並は独力で3年間苦勞に苦勞を重ねて発明、発売当初は芳しくなかったが4年後には普及率半分近くと国民的大ヒット商品1959年に第一回科学技術賞を受賞するも59歳の若さで1966年に逝去。

* 占領軍に着想を得た発明者～岡田良男～

～世界で受け入れられた「カッターナイフ」は1956年に考案された。岡田は1931年大阪生まれ旧制中学を中退、電気工事の見習い工の後に職を転々、印刷会社で紙を切るカミソリが不便で直ぐに使えなくなることに問題意識を持った。着想の元は占領軍の板チョコとガラスの板でガラスを切る時に表面に傷をつけてポンと押すと綺麗に割れる、この発想が元になったと。

岡田が考案したオルファ社のカッターナイフは世界100カ国以上で売られ世界シェア4割国内シェア6割、日本で生まれた小さなアイデアが「世界の当たり前」を作り上げた。又1979年には「ロタリーカッター」を生み出し、手芸では重宝な日本人らしさの特性の一つです。

{ 第四章 新たな世界を切り拓いた日本人 }

* 世界から称賛される日本建築界の巨匠～丹下健三～

～米国のプリッカー賞や仏国のレジオンドヌール勲章等

建築に関心を持った人にとっては神様の様な人、1913年大阪の堺生まれ住友銀行社員の父が中国赴任で上海の小学校に入学、東京帝大を二度失敗 1935年に工学部建築科 41年には東京帝大大学院、46年に同大の助教授 63年に教授、1980年文化勲章受賞、2005年に亡くなった。彼は数えきれない沢山の建築を手がけ広島平和記念館・香川県庁舎・国立代々木競技場・旧東京都庁舎・東京カテドラル聖マリア大聖堂（関口教会）新東京都庁舎、特に国際的に有名になったのは「広島平和記念公園」の設計で大きな成功を収めた。丹下の都市デザインは海外でも多数採用。1970年の大阪万博で新進気鋭の岡本太郎を連れてきたのは丹下健三その人で「太陽の塔」が真ん中にある「お祭り広場」にかかる大屋根の建築設計は丹下研究室が担当した。丹下の感性は次世代の槇文彦・磯崎新・黒川紀章等優秀な建築家を育成した。

* 「用の美」を追い求めた探究者「榮久庵憲司」工業デザインの元祖

～工業製品の意匠やロゴのデザインでヨーロッパ・米国だけでなく日本もこの分野では非常に大きな存在感を示し、その先駆者で長くトップランナーの座にあった榮久庵 1929年生まれ父は浄土真宗の僧侶、幼い頃よりハワイに移住、日米開戦の前に帰国、江田島の海軍兵学校で終戦、1950年に東京芸術大学美術学部に進学 1957年 GK インダストリアルデザイン研究所を設立し所長 2015年 85歳で亡くなるまで「インダストリアルデザイン界のノーベル賞」として名高い「コーリン・キング賞」を受賞、仏・伊から勲章を贈られ国際的に知られた偉大な存在でした。最も有名なデザインはキッコーマンの卓上醤油瓶、その他東京都のシンボルマーク、JRAのロゴ、ミニストップのロゴ、広島電鉄の車両、秋田新幹線「こまち」の車両、成田エクスプレスの車両、ゆりかもめの車両、JR西日本の「Red wing」の車両。

榮久庵が未開拓の世界に挑戦し自ら切り開き志を継いだ有能な後進が沢山いて奥山清行さんがフェラーリの創業 55周年記念モデルである「コンツォフェラーリ」等をデザインし、又最近はやンマートラクターのデザインも手掛けた。

* 翻訳書と共に評価された日本文学の代表者～川端康成～

～米国人が日本文学を学ぶコースの定番は夏目漱石・森鷗外・谷崎潤一郎・川端康成そして最後が三島由紀夫でした。日本文学はその知名度の割には大学の専門機関で学ぶ場が限られていてその中で最も有名な作家は川端康成で近代文学を代表する文学者と云えます。

ノーベル賞を受賞しアジアからはインドの詩人ラビンドラナート・ダゴールに次いで二人目・日本人では初、代表作の「伊豆の踊子」「雪国」など海外の人が理解しやすいことも一因。

川端は 1899 年大阪生まれ、幼い頃に父母を病気で失い祖父母や親戚の庇護の下で育った、中学で早くも小説家を目指し第一高等学校に進み 1920 年東京帝国大学文学部に入学在学中から文学者として脚光を浴び 1924 年卒業と共に同人誌「文芸時代」を創刊、処女作の「ちよ」は第一高等学校在学中の 20 歳頃発表、伊豆の踊子、雪国、千羽鶴、山の音、古都、最後の隅田川の発表は 1971 年と 50 年以上小説家として第一線に立っていた、1961 年文化勲章受賞、1968 年にノーベル賞を受賞～世界的に評価される為に優れた翻訳者が必要不可欠で「ノーベル賞の半分はコロンビア大学のサイデンステッカー教授のものだ」と云って資金の半分を渡した、非常に日本人らしいエピソード。

サイデンステッカー教授は大学では日本文学を教え多くの文学作品を素晴らしい翻訳方法で日本文化を世界に広く紹介した人物。

米国の大学で世界の文化講義で独はゲーテ、英はシェイクスピア、仏はスタンダール、デュマ、モーパッサン、ロシアはトルストイかドストエフスキー、イタリアはダンテあたり、そういったヨーロッパの文豪に匹敵する中で（例外はインドのタゴール）日本人の一番手で躍り出たのが川端でした。

* 氷の世界に光明をもたらした冒険家「和田重次郎」

～アラスカのサンタクロースと呼ばれ日本人移民一世で原住民のイヌイトの女性と結婚しリーダーとして活躍飢えと疫病による危機に瀕していた村のリーダーとして険しい山脈を超え苦難の末に新天地ビーバー村を開拓し（新田次郎のアラスカ物語で映画にも）1832 年 16 歳で米国に渡り捕鯨船の船員として売られ 2 年間酷使されるも英語の勉強に励んだ、翌年アラスカに渡り捕鯨とアラスカ語と犬ぞりの操作方法を学び 1897 年海が凍って動けなくなった 8 隻の捕鯨船に犬ぞりで肉を届けた、救助した人物から後年アラスカ開発に必要な費用を工面してもらった、和田は犬ぞりの名手、アラスカ開発で最大の貢献は「トレイル」と呼ばれる道を何本も作った、今では「アイディタロッド国際犬ぞりレースの約 1868km」世界一権威のあるレース。又カナダのユーコンとアラスカ間約 1600 km「ユーコンのクエスト」と云う犬ぞりレースも和田が開発したトレイル。アイディタロッドを開拓した和田の銅像が 2016 年に現地の人の手でスアードの町に立てられた～私はこのことをアンカレッジに住む息子が教えてくれフェイスブックで取り上げた。又和田はアラスカのゴールドラッシュの切っ掛けも作った、アラスカ第二の都市フェアバンクスの創業者のバネットと共同創業者といえアラスカの歴史に残る偉大な人物だ。

* 日本を代表する近代登山の父「槇有恒」

～なぜ日本人がスイスの地に山小屋を作ったのか・・・

楨は 1894 年生まれ仙台で学び 1917 年慶応義塾大学法学部卒大学時代に師事していた教授と共に日本最古の「日本山岳会」を創設 1918 年米国コロンビア大学に留学翌年からスイスで登山を続け 27 歳にしてアイガーのミッテルレギを登頂その 3 年後に 1 万スイスフランでミッテルレギの山小屋を立てた。つまりスイスの山小屋は楨がアイガーに初登頂した証だった、1956 年 62 歳の楨が隊長の登山隊がビマジャのマナスルに初登頂に成功、日本人が初めて 8 千メートル級の処女峰に登頂した世界的快挙、同年に文化功労者として表彰、英・米・スイス山岳会の名誉会員、1989 年に 95 歳で大往生。

- * 選択肢を沢山持つことは人生でとても大切なこと、私自身も弁護士になったのも MBA を取得したのも経営者を目指す選択肢もあって起業する際には両資格は高く評価されます。最初の就職先は世界で一番大きな国際弁護士事務所で就職できた最大の要因は私の日本語能力にあり大学院生時代には教える側に回っていた。弁護士資格があると政治家も目指せる。日本の国会議員は「国会の唯一の立法機関」の構成員なのに法案作成は官僚任せ、しかし米国では連邦も地方議会も自分で法案を書けない議員は仕事になりません、法案を書くことは私の特技の一つでもあります。日本の法学部では法律を作る課程は学べずカリキュラムにも一切ないと知り驚きました。

有名大学の憲法学者も国会で「そもそも憲法の条文がおかしい」と云う話が一切出ない現実はいまだに不思議でなりません。

- * 安住を求めない生き方～日本人と結婚したスリランカ人の友人には 3 人の男の子供去年長男は飛び級 16 歳で高校を卒業、大学に入って 1 年目が終わって日本に来て 18 歳になったら伝道に行くと言っていました。

将棋の藤井聡太 4 段の連勝記録が話題になりましたが彼のような天才は日本中にいるはずですが将棋のように特殊な世界でないとは日本では天才が発掘されにくい。

知人の同級生の高校時代の友人は 15 歳の中学生の時に天才的なプログラマーだったが現在の職業は地方都市のお医者さんで日本では学校の成績が良い人ほど自分の才能や興味を十分に生かせる冒険に満ちた人生よりも失敗を恐れ安定志向で無難な人生を選んでしまう傾向が強いと感じています。

マイクロソフトのビルゲイツはハーバード大学を中退して起業家に、漫画家の手塚治虫は国家試験で医師資格を得ても漫画家としての道を歩んだ。好きなこと・やりたいことを選ばないのは勿体ないことです。日本はある意味で恵まれ過ぎているかもしれませんが本当に幸せなのか・・・色んな意味で縛られていて且つ精神的にも不自由なのでは・・・私の父は私が地元の弁護士事務所に働くことを希望していたが「日本と米国をつなぐ弁護士になる」という冒険に挑んだのは宣教師として日本に来たことでその発想が生まれた。 P 8

{ 第五章 人道・平和に命を懸けた日本人 }

* 大和魂を世界に伝えた「伝道師」新渡戸稲造～外国人に曲解された＝

武士道。1862年南部藩士の三男として生まれ 1877年現北海道大学に入学、その後米国ジョーンズ・ホプキンス大学に留学キリスト教クエーカー派に入信、伴侶のメアリーと知り合った 1897年ドイツに留学 1891年札幌農業大学教授 6年後健康を害し休職・カルフォルニアでの療養時代に「武士道」を執筆、仏・独語にも翻訳され世界的なベストセラーになった。新渡戸はクリスチャンで平和主義者だったが武士道を広める目的の一つは日本人の平和精神論を海外に理解してもらいたいとの思い、ところが第二次世界大戦中に「武士道」が「日本人は 1000年間ズーと好戦的な民族だった」というイメージにすり替えられてしまった。これは第一に中国国民党リーダー蒋介石が米国を中国と日本の戦いに巻き込む為に妻の宋美齡を中心に日本を貶めるプロパガンダ活動を熱心に展開～9歳から米国育ちで完璧な英語を話しクリスチャン、尚且つ容姿端麗な宋美齡を米国人は無条件に信頼した。

～中国政府にとって最高の成果を残した宣伝工作だった～

「死を理想の体現とする思想」～騎士道が武士道と大きく違うことは「自らの意思で死ぬこと」を選択肢として入れていないこと、武士道の価値観は「命より名誉を重んじる」姿勢は日本人ならではの価値観である程の神秘性を持って受け止められる。新渡戸は 1920年国際連盟発足で事務次長に選任され 6年後日本に戻り貴族院議員、33年没妻のメアリーは 38年に亡くなるまで日本で暮らし夫の作品を広め保護した。米国の大学で日本文化が語られる時「武士道」は必ず取り上げられる。国際社会で活躍した人なのに何故日本で有名にならないのか不思議です。

* 命のビザで難民に手を差し伸べた外交官～杉原千畝～

ユダヤ人を救った「東洋のシンドラー」～ナチスドイツによるホロコーストからユダヤ人を救った人物はオスカーシンドラー 1994年第 66回アカデミー賞で作品賞等 7部門受賞「シンドラーのリスト」が彼の存在を広く知らしめた。第二次世界大戦の時にユダヤ人を救い出した人物は他にも何人もいる・その功績が際立っているのが外交官として活躍した杉原千畝 1940年リトアニアのある領事館代理として安住の地を求めるユダヤ人難民に日本通過ビザを独断で発行 6千人のユダヤ人を救ったと言われている。(ビザ発行の記録)シンドラーが救った 1200人に比べ格段に多い。イスラエルでは国民的英雄として称賛されており米国でもユダヤ人社会では非常に著名。

1986年杉原が亡くなった時、在日イスラエル大使が葬式に参列・近所の人は彼が何をやったかを初めて知った。「海外では有名・国内では無名」という特徴を象徴するような人物。

1947年帰国すると外務省から辞めさせられた、その後さまざまな職を転々、68年杉原ビザのお陰で命を救われたユダヤ人の人々を見つけ出し彼が助けた人達と交流が始まりイスラエル政府は1985年「諸国民の中の正義の人」に選んで顕彰した。日本政府による「公式な名誉回復」は2000年当時の河野洋平外務大臣が故・杉原千畝とその家族に初めて正式に謝罪した。

(完)